

深江の心象風景（4）

深江周辺の風景

筆者 岡田茂義

十七、新道を走る馬車型自動車

頃は第四十九号に記載されている明治天皇崩御の前後、即ち明治時代の終末期である。新道をオープン型の馬車にエンジンを付けた様な自動車が走つて来る。我々子供達（何れも六～七才位）は先を競つて車と共に一緒に走る。運転手の外国人が鞭を振つて、我々を振り払おうとする。一度その鞭が顔に当つて痛かつた思いが今も記憶に残つている。

当時天皇陛下は行幸の際、数頭立てのオープン馬車をご使用



図1 明治43年ごろの深江浜街道から分岐して南側に新道



写真1 新道 岡田善蔵宅の南側附近

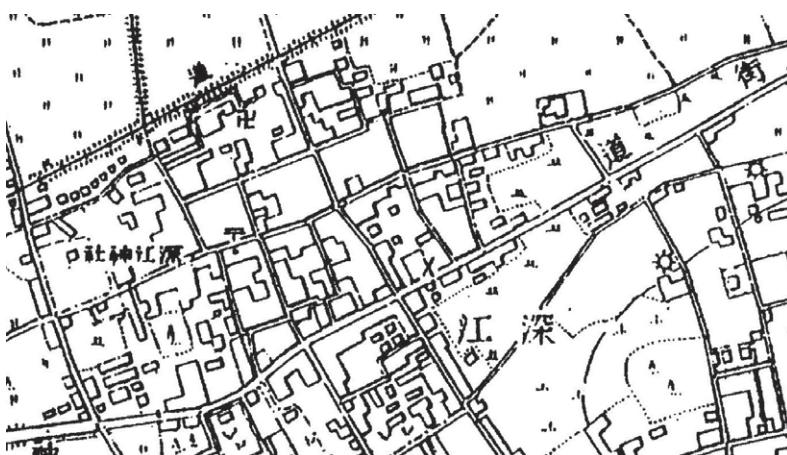


図2 大正12年ごろの深江
新道が「街道」となり浜街道より太く描かれている

になった。その後自動車に変えられたが、各国大使が新任挨拶のため宮中へ参内する時は宮内庁所属のこの馬車を使用して自動車の流れの中を悠々と走らせて見えた。

十八、横屋のゴルフ場

新道の風物につき一件書き添える。青木と魚崎との間に新道に沿つて大きな草原があつた。地名は横屋と呼んで、そこには一軒の家も無かつた。遙か南を眺めると向うの海岸にはスタンダードの煉瓦造りの石油貯蔵倉庫があつた。それと新道との間の広漠たる草原がゴル

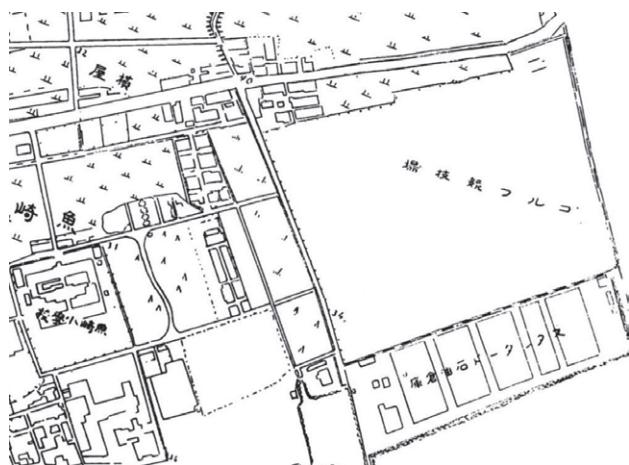


図3 横屋ゴルフ場とスタンダード石油（『魚崎町誌』）

当六甲ゴルフ場は既にあった様だ。後記してある「六甲ゴルフ場」に記載の「短い鉛筆」に依ると、明治三十四年英国人グルームによつて造られている。横屋の方はいつ始められたか知らないが六甲と並行して存在し、而も完備しない『らしき』ゴルフ場であったので、古くとも日本最初のゴルフ場とは云い難い。又、そのあと横屋に甲南ゴルフ場が出来ている。同じく「短い鉛筆」による。南郷三郎（ゴルフ界の重鎮）等によるものと思う。或期間この名前之下でその草原が利用されていた様だ。

十九、六甲「ゴルフ場

南郷茂宏「短い鉛筆」によると英國人グルームによつて、六

校になつていて、スタンダードの人達がプレーした。小学初年級の我々の友達が、時々このコースのロスト・ボールを拾つて学校に持つて来る。皆、歓声を上げて喜び、ボールを切り開いて中のゴム糸を取り出し各人に分け合つた。これが皆の竹製模型飛行機のプロペラを廻すゴム糸となつた。

フ場になつていて、スタンダードの人達がプレーした。小学初年級の我々の友達が、時々このコースのロスト・ボールを拾つて学校に持つて来る。皆、歓声を上げて喜び、ボールを切り開いて中のゴム糸を取り出し各人に分け合つた。これが皆の竹製模型飛行機のプロペラを廻すゴム糸となつた。

甲山上に日本で初めて四ホールのゴルフ場が造られた。彼は明治元年二十二才の時来朝し、ゴルフ場を造る数年前に六甲山最初の別荘を建てた。六甲山の開拓者でもある。その後、社團法人神戸ゴルフ俱楽部として日本人も入会させ、明治四十年には、一八ホールをオープンしたと記載されている。然



写真2 神戸ゴルフ俱楽部（絵はがき「六甲山上ゴルフ遊戯場」）昭和7年改修前の初代俱楽部ハウスが写っている

し、戦後私がプレーした時は二～三ホールの不足があつたことを記憶している。峻しいホールを使用していなかつたのかも知れない。

外国人により創設されたゴルフ場であるので、クラブ・ハウス内の表示も日本離れしたものがたくさんあつて戸惑つた。WCの表示の所が、正式にウォーター・クロセット (Water closet) と書いてあるので便所とは思えなかつた。今でもそれ等の難しい表示が残つているだろう。持ち運ぶクラブの呼び方も同様で

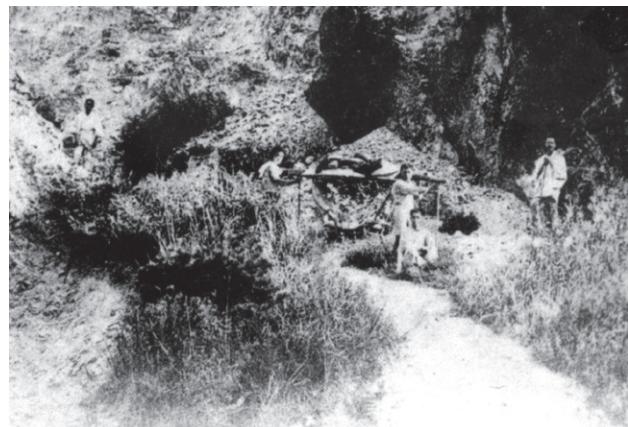


写真3 六甲山の籠昇き（絵はがき「有馬六甲山道」）

ドライバーはW・1、
スプーンはW・3、ブ
ラッシャーはW・4、
マッサーはアイアンの
5、マッサー・ニア
リックはアイアンの
8、それにパターと計
六本くらいで廻ったの
だろう。我孫子ゴルフ
場の会誌によると
driverは飛ばすclub、
spoonはその形、バッ
ティーは球を打った時
の擬音、ブラッシャーは
プラス（brass、ぶおと真鍮）

を底に張り付けたからとある。「何かちょっとした思いつきで愛
称が始まつたようと思われる。」と書いてあつた。
尚、「マッサー」とは伊達男、「ニブリック」は醜男の意味で
あることも面白く付記されていた。

六甲ゴルフ場でプレーするメンバーは籠かご（荷い籠）で山上ま
で担ぎ上げてもらつた。この籠昇きの一人が有名なプロゴル

ファーになつた。宮本留吉である。彼は日本オープンを六度制
覇し、全米チャンピオンのビリー・パークとプレー・オフし、
ボビー・ジョーンズにも勝つた記録を持つている。ゴルフ界の
リーダー赤星六郎のコーチを受けた。

二十、大阪湾を往復していた貨物運搬船
深江の浜から沖を見れば、いつも黒い貨物船（船型の運搬船）
が西へ東へと往来していた。神戸港と大阪港を連絡する運搬船
でその往来は絶えなかつた。

当時工場のあらゆる機械は総べて蒸気機関で動かした。その
燃料は石炭である。大阪へ行く時阪神電車で淀川の鉄橋を渡る
と途端に空が曇る。この地区の数多い中小企業の工場に林立す
る煙突からの煙によるものであり、その燃料の石炭は何れも九
州、四国、或は輸入されたものを神戸港で運搬船に積み替えて
大阪港に運んだ。

当時、日本の輸出品の第一位は二位と格段の差で綿製品であつ
た。鉄鋼製品は、まだ輸入の段階であつた。大阪地区は東洋紡、
日本紡、呉羽紡等の根拠地であり、これ等の工場の製品は何れ
もこの運搬船で神戸港に輸送され、大型船舶に積み替えて總て
中国へ輸出された。

この様に往復の貨物が多量に存在したので運搬船も数多く、
後から後へと続いて姿を現していた。因に鐘紡はその拠点を関
東の鐘ヶ渕から神戸に移した。

二十一、自作農の経験

並びにその時の台風に関連しての鶴塚ねづか

戦争と共に食糧事情が逼迫して、年貢として納まつていた米
俵が金納に変わって行つた。已むを得ず自作農を考え、偶々小
作に出してない一畝（三十坪）程の小さい田圃たんば（田地）が残つ
ていたので、これに水を入れ苗を植えて丁寧に草取りも続け
た。昭和二十年終戦の年である（昭和十九年の記憶違い——以下、
リーダー赤星六郎のコーチを受けた。

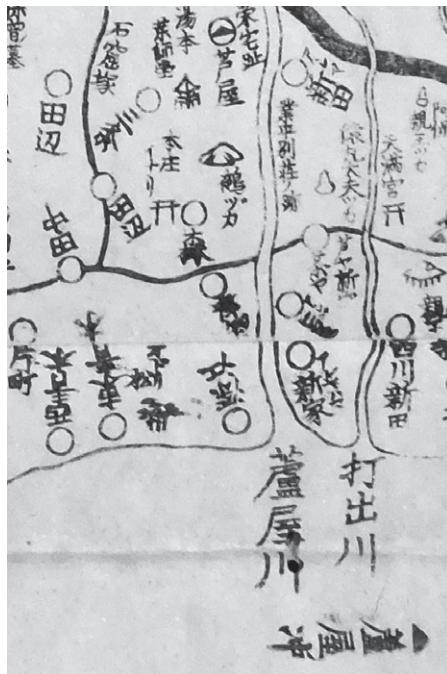


写真4 講塚
(天保7年「摂津名所旧跡細見大絵図」)

台風の名称も同様で、茂義氏自身の補注参照)。処が、有名なジエーン台風の襲来で稻が皆倒れ全滅した。翌年、これ又室戸台風の直撃を受け、田に海水が入り丁度穂に花が付いた時であつたので花粉が散ってしまい、一二三日後穂が白く変わり枯れた。その明くる年、昭和二十二年漸く僅かながら収穫することが出来た。

となつた由来がある。

室戸台風襲来の時、京都の奥にある清滝も大きな被害を受けた。旅館の従業員が清滝川に流された。その遺体が保津川に流れ込み、桂川を経て淀川に流され遂に海に入る。これが海流に乗つて芦屋の浜に打ち上げられた。

芦屋の浜に打上げられて鶴塚となつた不思議な漂流コースの実証が、この室戸台風による清滝からの漂流事実を以て現実に証明された。これは学友故安村慶次郎君の実証であり信すべきものと思う。業平橋は今は海辺より遙か上方かみの方にあるが昔はこの辺りまで海辺であつたのかも知れぬ。

註 この度拙書をご覧下さつて訂正すべき箇所の参考資料（国立天文台編理科年表）を送つてもらいました。それにより自作農を始めたのは終戦の前年昭和十九年とし台風の呼称を次の通り訂正いたします。

ジエーン台風　昭和十九年十月七日　台風（呼称なし）
室戸台風　昭和二十年九月十七日　枕崎台風

當時我々の中学校の教育は受験勉強だけのものでなく、人格養成を重視して訓練するところであつた。その中には円満な人格を作るために笑いの部門も設けていたのだろう。狂言・川柳・狂歌などが国語の教科書の中に出て来た。

その暗さ早太桜に突き当たり

既に記載した通り猪の早太が大きな音を立てて射落とされた鶴を捕らえようと前後を忘れる闇の中を走り、暗さのため思わず左近の桜にこれも大きな音を立てて突き当たつた（鶴は梅若謡本第一七巻参照）。中学生にユーモアのセンスを教え込む狙いである。この読本には早太の川柳の次にこの狂歌が続いていた。

早蕨(さわらび)が握り拳を振り上げて

山の横面春風ぞ吹く

狂言では大蔵流の茂山師の狐の出る狂言「釣り狐」を講堂で演じてもらつた。子狐がキヨキヨと叫びながら飛び廻る。これを真似て廊下をキヨキヨと飛び廻つたことが記憶に残つてゐる。

平成六年（一九九四）七月一八日（火）「朝日新聞」天声人語に「川柳が高校の国語教科書に登場するそ�だ。来年度から使われる教育出版の高校国語Ⅱに作家田辺聖子さんの随筆「川柳でんでん太鼓」が引用され箕面市に住む杉本一本杉さんの川柳が紹介される。（天高く月夜のカニに御座候）と云う句だ。月夜のカニは月光を恐れて餌をあされないで肉がつかないと、杉本さんは小さい頃父親から教えられた。瘦せていたので月夜のカニともからかわれた。」と記載されている。

漸く川柳が高校の教科書に出て来るようだが我々の中学生では既に川柳は狂歌と共に教科書に載つており、ユーモアの育成による人格養成が早くから配慮させていた。

史料館日誌抄

史料館副館長 道 谷 卓

二〇二三年四月～二四年三月
（二〇二三年）

4月1日 4月20日 神戸市立図書館の予約図書受取サービスの開始時間午後0時30分から午前11時からに早める。

神戸高低差学会

（見学者 一〇名）

季節の展示コーナーを「端午の節句」に展示替え

東灘区長が来館

（見学者 四〇名）

季節の展示コーナーを「夏の風物詩」に展示替え

甲南大学文学部

（見学者 一八名）

ひょうごプレミアム芸術デーに協賛し、田中邦彦

画伯の作品を展示

本山南婦人会

（見学者 一三名）

季節の展示コーナーを「中秋の名月」に展示替え

企画展示 田中邦彦画伯「東神戸 懐かしの風景

展」開始（12月3日まで）

本山第三小学校三年生

（見学者 九二名）

東灘ボランティアガイドの会

（見学者 五七名）

2階の深江文化村コーナーを拡張し、旧古澤邸から寄贈された資料を展示する。

季節の展示コーナーを「正月の風景」に展示替え

東灘小学校三年生

（見学者 一四六名）

福池小学校三年生

（見学者 一三七名）

季節の展示コーナーを「ひなまつり」に展示替え

山田良子／嘉門千晴／大国正美／真陽小学校／古澤弘／田中千尋

資料寄贈者ご芳名（敬称略）二〇二三年四月～二四年三月

（道谷 卓記）